横置きリンクス v2 スターターセット

取扱説明書

二層式タイプと現行メッシュネジ穴式エサ場用

現行エサ場は 2026 年 8 月 18 日以降の型です。巣を変更した場合は、変更先の説明も確認してください。

1 内容物と使用前の確認

標準内容物：二層式タイプ×1／シングルエサ場タイプ×1／半円形の連結プレート×2／締結ボルト×4／ネジ式エンドプラグ×3／外付け給蜜器 5cc タイプ×2／給蜜器用予備ボトル×1。オプションは注文内容と照合してください。

プラスドライバーと、巣への加水用のニードルボトルまたはシリンジを用意します。アリの生体とエサは別売りです。小型種に必要な内部チューブも、使用前に用意してください。

最小の働きアリの体長で確認します。

・3mm 未満：使用できない可能性があります。

・3mm 以上 4mm 未満：連結部の内部チューブが必須です。

・4mm 以上：チューブなしで連結できます。

女王を含む最大個体が通路を通れることも確認してください。パラポネラは通れますが、現在はより適した巣があります。強い咬合力を持つ種は、巣・エサ場・給蜜器それぞれのメッシュ仕様を確認してください。

割れ、カバーの浮き、メッシュの破損、部品不足がある場合は、生体を入れずに使用を止めてください。

2 巣とエサ場を組み立てる

① 生体を入れる前に、平らで安定した場所で巣とエサ場の接続位置を合わせます。二層式の加湿用メッシュがエサ場から遠い側になる配置を基本にします。

② 内部チューブが必要な場合は、連結する穴の内側に取り付けます。（写真 1）チューブを入れると通路の内径は 8mm になります。（写真 2）通路が狭くなるため、女王を含む最大個体の通過も確認してください。

③ 本体同士を横方向の隙間がないように押し合わせ、連結プレートの突起を下に向け、上から締結ボルトで固定します。（写真 3）プレート 2 枚・ボルト 4 本を使います。

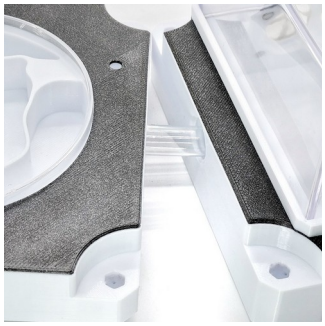


写真 1 内部チューブの挿入部

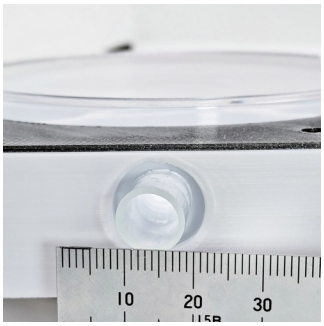


写真 2 チューブ装着時の通路
内径 8mm



写真 3 プレートの向き
ボルトの固定箇所

④ 使用しない巣の接続穴をネジ式エンドプラグで閉じます。（写真 4・5）エサ場に給蜜器を取り付けます。（写真 6）



写真 4 エンドプラグの取り付け前

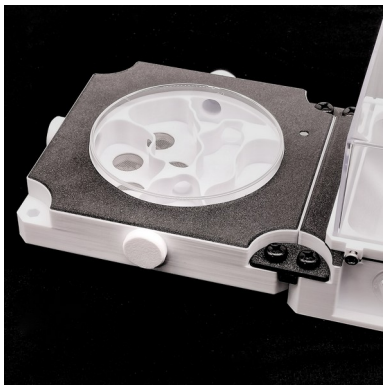


写真 5 エンドプラグの装着後



写真 6 給蜜器の取り付け状態

⑤ フタ・カバー・連結面・プラグ・給蜜器の接続部を点検します。未使用口が閉じていること、メッシュの外れ・隙間・破損がないことを確認してください。

3 巣を加湿するための給水



写真 7 基部上面の給水穴

加水が必要な種では、基部上面の給水穴から
水を入れます。（写真 7）下部の透明な貯水ケースを見ながら、軽石が水に浸かる程度まで入れてください。貯水ケースいっぱいまで入れて構いません。入れすぎた水は巣内ではなく外へあふれます。生活層へ直接水を流し込まないでください。

軽石が水に浸かっておらず、水をすべて吸い上げたら補水します。補水間隔は決め打ちせず、飼育する種と貯水部の状態に合わせてください。完全乾燥で飼育する種では巣へ加水しません。

4 フタを開けるときの脱走対策

生体を入れる前に、エサ場の内壁上部の滑らかな面へ、別売の脱走防止用粉末（タルク）を塗ります。指や筆で上部数 cm にムラなく塗り、下へ落ちた粉は濡れた筆などで取り除いてください。粉が落ちると効果が弱まるため、塗りむらやアリが壁を登る様子を確認し、必要に応じて塗り直します。

水やエタノールでタルクを溶いて塗る方法もあります。十分に乾かしてから使ってください。
アルコールやオリーブオイルなどの油脂は、レーザー加工面にクラックを生じさせ、美観を損なうことがあります。
タルクの塗りやすさと美観のどちらを優先するかでお選びください。
アリが通れる隙間や欠けが生じたケースは使用しないでください。

タルクだけに頼らず、作業中は開口部を見守り、終えたらフタを閉めます。フタ・接続部・メッシュの点検も続けてください。

5 飲み水と蜜エサを用意する

巣の加湿と、アリが直接飲む水は別に管理します。エサ場側に、その種に合う飲水方法を用意してください。付属の 5cc タイプは通常使用できます。

① 交換前に予備ボトルを準備します。ステンレスメッシュの付いたパーツを外し、水道水を入れて戻します。ボトルは満充填できます。蜜エサを入れる場合は、実際に飲む量に合わせてください。

② ボトル下部の透明チューブにアリがいないか確認します。（写真 8・9）いる場合は指で軽くトントンと叩くなど、振動で退避させます。



写真 8 アリがいる状態
退避させてから交換する



写真 9 アリがいない状態
透明チューブ内を確認する

③ アリがいなくなった隙に交換したいボトルを外します。（写真 10）すぐに予備ボトルを取り付けます。（写真 11）開口からの脱走に注意し、開けたまま放置しないでください。



写真 10 ボトルを外した状態



写真 11 ボトルの取り付け後

給蜜器のねじの角度調整は 1 周以内にします。希望位置を超えてさらに 1 周以上ねじ込むと、内部へ入り込むおそれがあります。

蜜エサの飲み残しは極力翌日までに取り除いてください。長く入れたままにすると、発酵による内圧上昇であふれることがあります。残量・汚れ・漏れ・メッシュの破損を確認し、異常があれば使用を止めてください。

6 エサ皿を使ってエサを与える

① エサ皿は別売です。エサ場上部の取っ手付きフタ（写真 6）を開け、エサを載せた皿を内部の床面に置きます。皿の下のアリを挟まないように確認し、安定させてください。日常の給餌ではケース全体を外す必要はありません。

② あり巣式エサ皿を使う場合、肉エサには溺死防止プレートを外し、水や蜜エサにはプレートを取り付けて足場を確保します。量は種類と実際に食べる量に合わせてください。

③ 回収時は皿にいるアリを確認してから取り出し、食べ残しを除去します。プレートや脚パーツを外して洗い、よくすすいで室内で乾かします。出し入れを終えたらフタを閉めてください。

7 生体の導入と日常の管理

種類に合う湿度・飲水・エサ、最小の働きアリと最大個体の通過条件、メッシュ仕様を確認し、組み立て・閉栓・漏れ確認と、4 の脱走対策を終えてから導入します。元の飼育容器を無理に直結しないでください。

導入直後は脱走、巣内への浸水、貯水部と飲水の減り、蜜のあふれを確認します。生体がいる状態で連結面やカバーを不用意に開けず、食べ残しや汚れを取り除いてください。

移動時はカバーだけを持たず、本体と下側のクリアカバーを支え、衝撃を与えないでください。

8 掃除と分解



写真 12 蜜エサの受けの掃除

エサ場には、こぼれた蜜エサで机などが汚れないよう、受けが付いています。あふれた蜜エサはこの受けに落ちるので、汚れたらティッシュなどで拭き取ってください。（写真 12）

分解清掃は、生体を退避させてから行ってください。すべての部品を水洗いできます。

・水または熱くないぬるま湯を使います。中性洗剤を使った場合は、よくすすいでください。塩素系漂白剤は使わないでください。酸素系漂白剤も、すすぎや水への漬け込みが足りないと有害な成分が残る場合があるため推奨しません。洗浄後は室内で乾かします。

・エサ場のクリアカバーを外す前に、下部の止めネジ 2 本を緩めます。（写真 13・14）ネジを緩めてから、クリアカバーを持ち上げて外します。（写真 15）戻すときはネジを軽く押さえる程度にし、締めすぎないでください。



写真 13 止めネジ 1 本目



写真 14 止めネジ 2 本目



写真 15 クリアカバーの取り外し

・貯水部は、巣を持ち上げて下部の円形クリアケースを外します。はめ込み式で、工具は不要です。軽石も取り外して水洗いできます。戻すときは軽石を平らにならし、ケースがはまるようにしてください。

・クリアケースは、アルコールや油脂の付着、加工面へのストレス、衝撃でひび割れることがあります。ボトルも洗い、汚れたまま継ぎ足し続けないでください。

9 別売オプションと拡張

30cc タイプは、飲み水の給水頻度を減らしたいときの選択肢です。蜜エサにも使えます。蜜 30cc を飲む規模は、おおよそ 1,000 匹を超えるような大コロニーです。実際の消費量に合わせて入れ、飲み残しや発酵に注意してください。

遮光カバーは追加オプションです。対応するリンクス v2 の巣・エサ場・継手・連結部品で増設できます。旧 v1 や M22 を同規格として扱わず、接続部の形状と最小個体の条件を確認し、増設後も全接続部を点検してください。